



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

学校だより 6月

令和6年6月3日

荒川区立

峡田小学校

校長 松本 典之

経験と記憶

生活指導主幹 飯塚 宏美

「心をこめて 勝っても負けても全力チャレンジャー」のスローガンのもと、子どもたちが全力で取り組んだ春の運動会が終わりました。運動会では、子どもたちの輝く姿を見ていただきありがとうございました。進級・入学してからわずか2か月。子どもたちの頑張る姿に声援や拍手を送っていただき、自信になったことと思います。

最近本屋さんに立ち寄ることがありました。本屋さんに入ると、ある本が書店の1番目立つコーナーにずらっと並んでいました。その本は、本屋大賞を取った『成瀬が天下を取りに行く』（作者：宮島未奈・新潮社）です。もしかするとすでに読んだ方もいらっしゃるかもしれません。

本屋大賞がずらりと並ぶ本棚の下に少し目をやると、『リカバリー・カバヒコ』（作者：青山美智子・光文社）という本が棚の隅に置いてありました。この本は、本屋大賞にノミネートされながら惜しくも大賞を逃した本です。すてきな表紙が気になり早速買って読んだところ、ストーリーの面白さにはまりあっという間に読み終えてしまいました。

小さな心の痛みを感じ、心をリカバリー（回復）したいと願っている5人それぞれのストーリー。第4話「勇哉の足」には、小学校のマラソン大会に出るのが嫌で、「足が痛い」とシップを貼り、「ねんざしてしまった」とクラスみんなに嘘をついてしまう勇哉くんが登場します。そうして足をひきずっているうちに本当に足が痛くなってしまいます。その痛みを治すために整体院に通う中で、痛めた足と嘘をついて辛くなった心をリカバリーさせていきます。そして、マラソン大会当日。くじ引きで選ばれて走ることになってしまった友達のスグルくんを応援しながら、苦手なはずのマラソンを一緒に走るのです。

整体院の先生がそんな勇哉くんに話した言葉。「人間の体はね、回復したあと、前とまったく同じ状態に戻るというわけじゃないんだ。」「病気や怪我をしたっていう、その経験と記憶がつく。体にも心にも頭にもね。回復したあと、前とは違う自分になっているんだよ。」

いよいよ6月になり、1学期も折り返しです。子どもたちが運動会をはじめとして、様々に頑張った「経験」、楽しかった・褒められた「記憶」をこれからの自信にし、よりよい自分に成長していったほしいです。学校生活に慣れ、梅雨のじめじめが始まる6月は、学習や友達関係の悩みが多くなる時期です。今月の個人面談では、ご家庭の様子や学校での様子について情報交換できたらと思います。担任や学校に



伝えたいこと・相談したいことがあれば遠慮なくお知らせください。